（十五日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料　雜報欄行五十錢（塲所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

徴兵適令者心得
特に左の項を注意せよ

本年徴兵檢査受檢壯丁の爲め一般心得受檢前後心得その他のにつき注意事項を指示し檢査の圓滿なる進捗を期してゐるが受檢前の壯丁は特に左の事項を心得られたい

△着裝　は正しく且つ質素でなければならぬ又官公吏教員學生僧侶等の如きはその制服を用ひらるゝがよい尚ほ山間より遠來する者の如きは草鞋がけでもよろしい特に左記事項を遵守せられたし

イ、身体各部を清潔にし頭髮を成るべく短く刈ること

ロ、檢査場にて衣服を脫ぎたる時包む風呂敷を持參すること

ハ、貴重品を持參せざること

ニ、徴兵檢査通達書及び青年訓練手帳學業その他職業に關する卒業又は修業證書

ホ、清潔なるもつこ褌を用ひ猿又はなるべく用ひざること

へ、トラホームの治療を受けたるものは其の治療分

△抽籤入營　甲種に合格し是非入營しやうと思ふ人は籤外徴集願を作り檢査を受くるまでに檢査場にある聯隊區司令官に差出すことその樣式左の如し

籤外徴集願
兵役法第三十三條第四項に依り現役兵に徴集相成度候也
年月日
本籍地……
現住地……
本人　何某印
聯隊區司令官殿

△丁年未滿入營　滿十七歳になり未丁年にて入營せんとする者は徴兵檢査前までに兵役法施行令第七條の規定により現役志願をなすべきものである特に將來下士となり又は進んで將校とならうと思ふ人はこれが捷路である而して歩兵科下士希望の者は檢査時學科（高小卒業程度）の試驗を行ふ願書樣式は市町村役場につき承知せられたし

△朝鮮滿洲軍隊希望　の者は兵役法施行規則第二百五十一條により八月十五日までに願出づればよい

△海軍志願　も海國男子の一大快事である

△檢査前日　より徴兵署所在地に宿泊する者は素行を愼み決して料理店靑樓等に登り自己の品行を傷け出身市町村の名譽を損ふ等の行爲なき樣特に注意を望む

△鄕社參拜　鄕村出發前には必ず清淨の身心を以つて産土神の祠に參詣せられたし多數の内には動もすれば兵役を免れんがために陰に淫祠邪神に祈願する者ありと聞くもこれは國民として恥辱であり又この目的を達し得るものでない

△寄留地受檢　の者は檢査を受くべき年の一月三十一日までに寄留地の市町村長に願書を差出し許可を受くべきであるが期日までに出願し得ざる時は臨時願として（事由を詳記し）市町村長に差出すことを得るも許可せられぬことがある

△所在不明壯丁　は一家の面目にかけて十分その行先を詮議し處罰を受くる等の事となからしむることに配慮ありたい

△家族自活　し能はざる確證ある者は兵役法第四十條に基き本人の願により徴集延期することが出來るがこれは軍事救護を受くるもなほ自活し能はざるものゝみ許可せらるゝものとす又家族二人以上現役兵として同時に在營するため家事上の支障を生ずる者は一人の除隊まで入營延期せらるゝ途もある

△不具者　の兵役免除はだん〳〵醫師の診斷書に依り願出する途もある

※明日の吉凶※
舊暦二月二十五日
新暦三月十六日

▲一白　運氣上向き來る日なるを以て顧慮なく進め
▲二黑　昇るべききだはしに足を掛け居ても進まれぬ日
▲三碧　運氣動もすれば逆轉せんとする商事尤も注意
▲四綠　細事を輕卒にし大事を破る事あり萬事注意
▲五黃　報ひは少くとも勞苦を厭はず自らはげむべし
▲六白　約束を結ぶときは後に至り異變を生じ易し
▲七赤　念には念を入れ細かき事より處理し行くべし
▲八白　入に求むる事は多く行違ひとなる文書注意
▲九紫　小より大に近より遠きに達する心掛けが肝心

闇に閃く男達

講談

（40）

高田　涙川作
尾崎　雪履畫

西瓜にまらで熊五郎の方も用心しながら見てゐると、まだ少年である。

「二人のやつ、子供のやうだ、心配はねえ、待つてやんねえ」

熊五郎は片わきの木の根に腰を下して待つ

「オ、そこにおなさるなア佐原の熊五郎親分ですか」

重太郎はちよいと言葉を改めた

「いかにも熊五郎だ、して手めえは何の用事があつておれらを呼び止めたのだ」

「ヘイ、俺ちやアございません、私[illegible]この善兵衛の縁に[illegible]渡邊重太郎といふもの、親分に折入つて頼みしたい事があり、わざ〳〵こゝまで參りました」

「フム、それぢやア手めえは善兵衛の身内の者か」

「イヤ身内といふわけぢやアございません、仔細あつて厄介になつております」

「その手めえが、己に頼みてへといふのは一体どういふ事だ、大方子分にでもしてくれといふのか」

重太郎は相手に油斷させだん〳〵熊五郎のそばに近寄つた

「イヤ親分、ためえさんのやうなものゝ子分には少し貫目がすぎた、この重太郎、頼みをいふは他でもねえ實は汝の命を貰ひたいのだッ」

言葉も終らぬ中に拔く手も見せず一刀流据ゑ切りの秘術、エイッ……電光石火熊五郎の兩足を拂つたから何かは堪らん、アーッといふとズデンドウとその場に倒れた

「オヤーッ、この野郎、太てえことをしやアがる、ソレ金藏やつつけろッ」

五郎吉と金藏の兩人互に一刀引きぬき左右より重太郎目がけてきりこんでくる少年とは云ひ中原先生より仕込まれた一刀流のきつさき物凄く、兩人を相手とするけんくわは上手でも武藝は知らぬ兩人、ことに親分の倒されたので氣勢をくじかれて居る處甚だしい重太郎にきり立てられ、五郎吉は重太郎の横に拂つた一刀をかわし損ち、二つになつて倒れた、餘りの腕の美事さに金藏はコワ叶はぢと、後も見ずに逃げだした

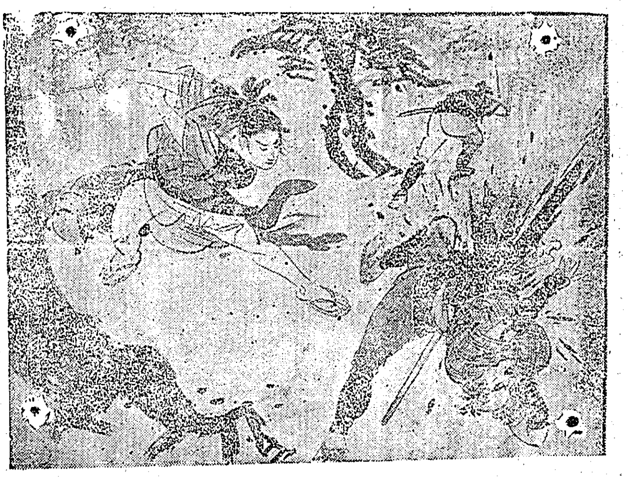
重太郎はそんなやつに目をかけなかつた

「ヤイ熊五郎、よくも大勢を頼み善兵衛に恥辱を與へ男の面体にまで傷をつけたな、手めえの樣な卑怯なやつは俠客仲間のつらよごしだ、この重太郎が義によつて善兵衛の無念を晴らしてやるのだ、早く成佛いたせッ」

熊五郎の首を斬り落し、片袖をちぎつてそれを包み悠々として江戸崎へ立歸る

海岸へ出て見れば、サッキ送つてきた太市がまだゐた

「オ、太市、まだゐたのか己を乘せて歸つてくれまへ」



「コリヤ重太郎樣……ようございます」

「さうか、それは有難い、ではこれをそつちへ置いといてくれ」

「へエ、こりやアなんでございます馬鹿にギチャ〳〵するぢやアありませんか、ハ、ア、すいくわを買つていでなさいましたか、どんなやつか見せてもらはう」

片袖の包みをあけた太市はびつくり仰天した

「ウアーーッ、コ、りやア、どうか御勘辨を……」

「エーッ、どうしたといふのだ」

「ためえさまわつちの首もとる氣でせう」

「たれが手めえらの首をとるものかい、サア急いでやつてくれ」

太市は怖さ恐ろしさのあまり一生懸命に漕ぐ月を浮べた霞ヶ浦は一幅の好畫圖である。

平町田町
高久病院
電話五一三番

マキノプロダクシヨン超々特作品
斑蛇（まだらへび）
我等が期待憧憬の寶玉篇
いよ〳〵大公開
原作　喜多呂九平氏
監督　二川文太郎氏
マキノ智子誕生第一回主演映畫
出演者　嵐長三郎　武井龍三　中根龍太郎　市川小文治　杉狂兒　山本禮三郎　鈴木澄子　津村博
玉蟲のゑんにも増して美ばしき
わか斑蛇が戀とつるぎの戰ひに
その生涯の花を咲かしたと云ふ
艶かしくもかなしき物語り
大江戸に出沒する怪女賊捕物奇譚
十六日より特別大興業
帝キネ　マキノ
有聲座

入院隨時（自炊の便あり）
耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

銘酒
[illegible]
瓶詰販賣開始
一升瓶詰　一圓二十錢
四合瓶詰　四十五錢
二合瓶詰　二十三錢
自信ある優等酒を卸値より安く廣く賣るために新に瓶詰小賣部を設けました
平町　永山酒造店小賣部
電話二〇七番

産科婦人科主任トシテ醫學士野秋善直新任ス
赤心堂病院
平町字田町電（話四七五）
外科、耳鼻科、泌尿科　院長　新妻由五郎
産、婦人科　主任　野秋善直
内科　主任　小林四郎
X光線科　主任　木下寅市
藥局

生徒募集摘要
本校ハ婦人ノ齊家ニ須要ナル裁縫、家事及手藝等ノ科目ヲ中心ニ更ニ高等普通教育ヲ施シ淑徳ヲ涵養シ智能ヲ啓發シ以テ地方有爲ノ子女ヲ養成スルヲ以テ目的トス
一、募集人員
1、高等女學部第一學年　五十名
2、同　第二學年補欠　若干名
3、裁縫女學部普通科　百五十名
4、同　高等科　若干名
5、專修科　三十名
6、洋服裁縫科（初等科　高等科）　二十名　二十名
7、研究科　二十名
二、入學手續
◎志願者ハ本校規定在學證書ニ適當記入捺印ノ上三月三十一日マデニ平町藤田女學校ニ提出スベシ
◎定員超過ノ際ハ在學書提出ノ順ニ採用ス
◎詳細ハ本校宛學則請求セラルベシ
昭和三年三月
福島縣平町　私立藤田女學校
同湯本町　私立藤田女學校湯本分校（湯本分校ニ提出）
同江名町　私立藤田女學校江名分校（手續中江名町役場ニ提出）

女中さん入用
御料理　平町田町
玉柳
電話二一[illegible]

宮内省御用達

ヒゲタ醬油
醸造元　銚子醬油株式會社
特約店　平町田町
廣瀬支店
電話五四番

新館陳列
模樣銘仙
京御召
小紋錦紗
帶側
昭和三年度春の粧ひ
新柄が豐富に取揃ひました
是非御覧下さい。
平町
三井呉服店
電話　三七番　八五一番

受驗ロマンス
善は急げ

「今日は」

「あ、君か、まア上れ」

「やつちよるな」

「ウム、勉强だけは仕方がないよ」

「お互にダブつちやゝり切れんからネ」

「大學となると尚更だよ」

「[illegible]生か、讀んだら借して[illegible]よ」

「何か、素的な勉强法はないかなア―」

「さうだなア」

「まア[illegible]を中斷にするに限るネ」

「そりや分つてるよ、だけど……」

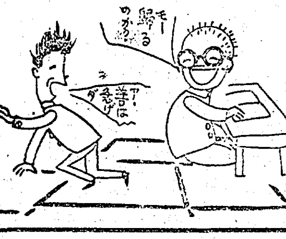
「イ、此間からトツカピンか試してゐるンだが、とても良いネ」

「さうか！そんなにいいか」

「あ、僕一、僕は不眠症といふのだらうネ、少し勉强すると、すぐ昂奮しちやつて眠れなくて困るンだ、眠れないと翌日はもう頭はガラ空同然だからね」

「さうだ、僕もその通りだ」

「困り果てた結果フト思付いたのがトツカピンさ、あれを服むと直ぐに眠れるし、翌日眼醒めた時の頭腦の明快さは何も云はれんな」


モー歸るのかネ
ヤー、善は急げダ

「成程そいつはいい思付きだ、實は僕も多少神經衰弱氣味だし、早速買つて、服んで見よう」

「あ、早速試して見給へ」

「有難う、左樣なら」

「オヤもう、歸るのか」

「ウム、善は急げ、藥屋へ寄らなくちやならんから……」

「待て、待て」

「何だ」

「トツカピン服んで君の頭腦は明晰になり、記憶力はうんと增進して、天晴れ試驗はパスする―其節は？」

「あ、現金な奴だなア、奢るよ、奢るよ　トンカツでもね」

「ハ、ハハハ……」

和田禎宗を相手取り 慰籍料壹萬圓請求の訴訟

夫の不倫に呆れた妻から

來月九日第一回公判

（町三丁目質屋金貸業和田禎宗(四九)妻キミ(三五)は現在平町白銀町に別居してゐるが此の程東京市安藤、鈴木平松横　三辯護士を代理とし夫禎宗を相手取り離婚並に一萬圓の慰籍料請求訴訟を平支部に提起したがその理由とする處は

原告キミは去る明治四十五年被告禎宗と結婚をしたるも其の後大正十二年頃からキミは肺病となつた爲め東京某病院から看護夫鈴木クニ(三二假名)を常備看護婦として雇入れてゐる中何時しか禎宗はクニと情を通ずるに至り妻キミは在つて無きが如く家政の一切をクニに一任し殊にキミの病氣が昂進するや禎宗は去る大正十五年頃から平町谷口樓の抱ひ藝妓某（特に名を秘す）の色香に迷ひ出て行けよがしに虐待されるので居たゝまられず遂にキミは昨年九月前記白銀町に別居するに至つたるのであるが其の後貞宗は素行猶を修まらず妻の別居を幸ひに亂痴の極を盡しゐるので餘りの惡にキミは意を決して今回の訴訟に及んだものであると言ふ

が此れが第一回の公判は來る四月九日午前十時から平支部判廷で開廷に決定した大金持として知られてゐる和田貞宗を中心とする該事件の成行に就いては全町民から頗る興味を以つて見られて居り殊に事件の内容を知る人々は否れも原告のキミに多大な同情を寄せてゐる

一日も忽せにせず 必ず種痘をせよ

決して油斷は出來ぬ

天然痘漫延の兆

平町に於ける天然痘發生の報に極度に狼狽した縣當局では昨報の如く十四日取敢ず現場に急行防疫督勵中の渡邊縣衛生課長は驚愕しながら語る「何しろ死亡者の會葬に行つた者が片つぱしから眞性と判明してゐる折柄でもありこの分では益々續發を見る形勢で全油斷が出來ない、然し現在の調査によれば會葬者中遠へ旅行した者もない様だから發生しても局部的のものと思つてゐる、發生元の太田方前戸主丑藏の死亡したのは二月廿四日で初發患者徳男三女とみの發病は八日だから丁度潜伏期間を滿了したばかりのところでとみは未種痘の關係上最も早く診斷が判然した譯である、系統に就いては調査中だが恐らく東京方面と思つてゐる、痘瘡ぎ後三日間位發熱し一應解熱後發痘で日間經後で赤腫れから漸次腫れとなり判然するのだが種痘者はどうして遲ぎ比較的輕るい假痘期間を過ぎて眞性となり、未種痘者は立ちどころに發痘また死亡期間も早いこの際未種痘者は勿論痘者は勿論既種痘者でも相當期間の經過してゐる向きは取急ぎ種痘を勵行する必要がある

石城郡小學校

學力調査

五年生を執行

石城郡内各小學校では尋常科第五學年生の學力調査試驗を十七日一せいに執行する

婦女勞働者に對する 深夜作業を禁止

社會政策的意味を含め

常磐炭礦協議會

常磐炭礦會議は十三日後一時より湯本町松柏館に開催し

(古河)下野、湊谷(福島)熊谷、大角(磐城)菅原、水野(三井)淡輪、久保、(大日本)中村(大倉)高橋(入山)漆野、吉田、大貫の各代表者會同し國際勞働條約に基く保護坑夫（婦女と未成年者）に對す

一、坑内作業禁止

一、深夜作業禁止

右二案のうちその何れを先に實行すべきかの件について協議を重ねた結果坑内作業禁止を不取敢す實行すれば後山婦が全廢され隨つて石炭の出廻り不足から自然炭價の暴騰を見その結果は直接各會社を利する事となり利己主義から見れば之れを採るべきであるが之れを即時實行するとせば幾多の失業者を出さざるべからざる自然の趨勢に鑑み先づ不取敢す深夜業禁止を勵行し今後婦女の雇用契約をなさざる方針に基けば既雇用の婦女を五年後には自然全廢になるからその後に於て本案を實行する事の社會政策的見地から方針を決定したと

論壇

入學難問題

入學に就ての一切の責任誤解惡感情などを小學校の方で引受けることになるとすれば、小學校内申による新選拔法は大手より落城せず、搦め手の方から崩されるだらうと國民は論じた。試驗の成績によつて落されたのは致し方がないが、試驗なしで憂目見るとは承知が出來ないことだ、といふやうに年々收容しきれない數の兒童父兄から苦情となれば然り大問題とならう。早くすでに然ういふ苦情の色合は父兄側に見られつゝあるでもあらう。これを論者の搦め手說として更に大手からも易々として落城の氣配ある新選拔法は、先づ失敗其のものである。若し眞にこの入學難緩和を計らうとするならば所詮容れ物を大きくするより外に、其の方法は無いと論者は主張してゐる。すなはち學校及び各校定員の增加が根本の解決事項であらねばならぬとするものである

機械的必然は容量を大にすれば收容にあづかるもゝ苦勞が減するといふころにある。入學問題はこ種の必然に當てはまる所あるが、更に滑かな必然に振らねばならぬ。私立各學校の内容充實の主張を再び示してゐる時事に、後者的なる必然を見やうとする眼あるなど云ふを得やうか。すなはち珍らしくない事ながら官私差別觀の邪魔を拂へといふ。

問題はなほ突きつめて考へなければならまい。其の考へ方の一項はまことに人々の失念してゐる所に橫たはる——年々歳々に入學難に苦悶する兒童の父兄達の心の態度を見よ。誰か常任て學校及び教育に對して改善充實を意見し又はそれに對する遂行の努力を以てしてゐると主張し得る者であるか。更に適切に云へば次のやうなるは誰なる歟。他の營爲する學校中良しと思ふものに子弟を投げ込むことだけ持たうとする、就中私學の新營難問題、官學の門前殺到の弊はこの良い結果にだけ與らうとする必要の然らしめ、入學地獄は寢て居て極樂の反面だ

小太郎逮捕

逃げた賭博犯

赤井村生れ當時好間村大字上好間字上野居住野菜行商人前科二犯小川小太郎(三八)は去る大正十五年十月十四日夜神谷村大字鎌田石名出山中で同村北川清四郎等數名と共に賭博開張中を署刑事に踏み込まれた際巧みに逃走行方を晦まし更らに昨年[illegible]齋藤儀平外十五名と花合大會を開催現金賭けの大賭博を開帳中前記同樣に巧み逃走行方を晦ましてゐたが八方に行方の捜査の折柄小太郎は殘して置いた妻タケノが戀ひしさの餘り十三日夜秘かに好間の自宅に舞戻つた所を平署の爲め寢込を襲れて逮捕され目下嚴重取調を受けてゐる

[illegible]工場

小名濱に設立認可

製氷會社では小名濱港の縣有埋立地に分工場を設置する計劃で先に縣から百九十八坪貸地認可を得たが愈々建築工事に着手することに決定し十三日建築物の施設計の認可を出願した、建物は機械室廿坪製氷室四十三坪貯氷庫四十八坪であると

天然痘益々蔓延の兆

寢食を忘れて豫防に腐心

警察當局極度に狼狽

石城郡平窪村に天然痘發生以來平町、四ツ倉町、草野村等にまで疑似患者續出を見た結果今や全縣下を震撼せしめてゐるが平警察署當局では十三日以來全署員總出動で平窪村を中心に管内各町村に亘り嚴重に警戒に努め殊に平窪村の大出總男方を始め患者を發生せしめ各戸に對して一齊に交通を遮斷し同村小學校の如きは一週間の休校を爲す等凡ゆる豫防策に腐心してゐるが昨十四日急據來平した本縣渡邊衛生課長は直ち、天然痘の傳染系統に就いて精密な調査を續けてゐるが去月廿四日死亡した太田丑藏が天然痘であつた事は殆んど疑ひないものと言はれ益々慢延の兆あるので極度に狼狽してゐる

全郡種痘執行

各炭礦も明日から

地方民極度狼狽

[illegible]

天然痘襲來の報傳はるや石城郡地方民は極度に狼狽し警察當局は各町村當局を督勵し急遽種トウを執行せしめてゐるが平町は昨夜二萬人分の藥物到着と共に今十五日午前九時より午後三時まで市内七ケ所に於て全町民に種痘を執行したが各炭礦でも夫れ〴〵準備中で好間村古河炭礦、磐城、入山各會社とも十七、八日頃までに全山一齊に執行する筈である

突如草野村にも

天然痘二名發生

各れも丑藏の葬儀に參列

全村極度の狼狽

草野村大字下神谷字本内記富岡富彌(六七)同村澤帶中根松吉(六〇)の兩名は否れも數日來病氣臥床中であつたが十四日夕刻木村醫師診斷の結果眞症天然痘と決定し直ちに隔離されたが兩名共去月二十八日根源である平窪村太田丑藏の葬儀に參列したものであると言ふが突如二名の天然痘患者を出だした草野村は極度にらう狽し直ちに全村に亘て大消毒を執行強制種痘を爲した

横山氏の眞疑

今夜判明

更に草野四倉

平町五町目染物業馬目政治が眞症天然痘と確定以來平町では極度に狼狽を極め平署當局と共力し極力豫防に努めてゐるが平町白銀町橫山顯氏は數日來病氣臥床中であつたが昨十四日午後三時弓田防疫官の出張診斷の結果殆ど天然痘と判定したものゝ如く今十五日午後三時からの再診斷に依つて眞疑決定される筈であるが平窪村平町は勿論郡下各所にも今後續出すと模樣である

再診斷の結果横山氏

眞症天然痘と決す

患者は直ちに隔離

附近一帶を大消毒

平町白銀町河北新報平支局長横山顯氏は天然痘疑似患者として注目されてゐたが別項の如く今十五日午後三時弓田防疫官が再診斷の結果遂に眞症天然痘と決定直ちに隔離手配を爲すと共に一大消毒を執行したが更らに患者續發の兆あるので平署並に平町當局では極度に嚴戒を續けてゐる

丑藏の葬儀に列つた

三百名が危險

恰度けふが二週間

或は一時に發生か

石城地方の痘瘡病の傳播經路は夕刊所報の如く初患者太田トミ(二)の亡祖父太田丑藏の古峰神社詣でと目されてゐるので縣衛生課では同行者十名が居町を突き止め同時に會葬者三百餘名の居宅も突き止め尋い警戒中であるが葬儀の日より今十五日が丁度十五日目に當るで潜伏期間が二週日であるので或は今明日中に多數患者を出しはしないかと憂慮され、又生憎と昨今來流行感冒が猖獗し發疹の初期か感冒と類似せるために同地方民は戰々恂々としてゐる

訂正

本紙昨夕刊第二面天然痘の記事中十行目平町五丁目「料理店」馬目政治とあるは「染物店」馬目政治の誤りにして之れが爲め吉田屋料理店の迷惑を憂慮し茲に訂正す

御大典記念と

祝賀協議

石城町村長會

石城郡町村長支會では十五日午後一時から平町元郡衙公會堂において評議員會を開催の筈であるが協議事項は御大典祝賀記念事業その他についてゞあると

青年評議員

豫算の審議

石城郡聯合青年團では十五日午前十時から磐城中學校に評議員會を開き昭和三年度豫算について審議した

坑内で慘死

三井坑夫二名

磐崎村大字藤原三井炭礦湯本礦業所百十四號坑夫長屋居住先山夫松本泰一(三三)同五十九號長屋居住後山婦武塙キン(四七)の兩名は今十五日午前八時頃入坑左部電叉卸右坑一昇坑道附近で作業中兩名共坑内高壓電線に觸れて感電眞黒焦となつて悲慘な即死は遂げ急報に依つて平署から七海部長現場に急行檢視の上死體はそれ〴〵家人に引渡した

老婆を脅迫して

五十錢を强奪

三人組の馬の足ども

植田署に擧げらる

石城郡勿來町附近の畔に於て去月二十七日午後〇時三人組の强盜現れて通行人を脅かしたとの風評が植田署員の耳に入つたので遺般活動中のところ被害者は茨城縣多賀郡本村大字八友神長タキ(七三)と判明しなほ犯人嚴探の結果原籍茨城縣多賀郡華川村大字小豆畑當時住所不定神長義雄(三四)同茨城郡山根村大字金城當時住所不定坂倉井健次(一九)同郡大野村滋井菊地武雄(三〇)の所爲と判明し十三日夜勿來町を徘徊中同署々員に逮捕されたが此奴等三人は

元田舍廻りの劇團の馬の足で當地に放浪して來つた所空腹に堪へ兼ね前記老婆を捕へて「婆ア金を出せ出さないと引つ叩くぞ」と職掌柄の科白もどきで脅しつけ「金五十錢也」を捲上めたものである

平一校勤儉

五日間連續執行

平第一小學校では十一日から一週間行はれてゐる第九回勤儉獎勵週間に際し左の如く日割で獎勵したが好成績であつた

三月十一日(日曜)　社會奉仕デー

三月十二日(月曜)　貯金デー

三月十三日(火曜)

三月十四日(水曜)　能率增進デー

三月十五日(木曜)　早起きデー

◇[illegible]

[illegible]小泉嘉輔獨創努力長劍活劇[illegible]の珍篇

諷刺喜劇　なまけ者

飲めや唄へや踊つてはねて後は野となれ山となれ

カボチャン獨得の妙技、偉大の傑作？タッ一言、

素的滅法面白い可笑しい映畫

◇日活時代連續大映畫　朝日新聞連載

原作大佛次郎　主演河部五郎　大河内傳次郎

監督高橋壽康

照る日曇る日　三十六卷全部上映

◇松竹作品　中村吉藏原作　諸口十九主演

深刻と哄笑の泉

映畫の寵兒、心血の結晶、ストーリー演出、テニック殺陣、悉く滿點突破、大衆時代映畫の完璧

社界諷刺　地下室　松井千枝子　田中絹代　新井淳　飯田蝶子

上品でとてもチャーミーグな面白い最も映畫的な映畫は是れあらゆる映畫中すべての形容辭を超絶したる巨人的作品を見給へ

◇十六日ヨリのプログラム

喜劇　なまけ者

照る日曇る日前篇六卷上映

◇廿日ヨリのプログラム

諷刺劇　地下室

照る日曇る日後篇十六卷上映

日活松竹特撰映畫

高級常設　平館

電(四六六)

學生カバンと

學生帽子

平町四丁目

ツルヤ商店

電話四百四十番

貸地廣告

平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします

御希望の方は電話なり戴けば社員が御伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社

平出張所

電話　六〇三番　五四一番

入院隨意（自炊の便あり）

Ｘ光線

外科專門

平南町

上田外科醫院

電話一二九